

～ ご参加の皆さまへ お願い ～

- ・市内探訪では、集合から解散まで統一行動となっています。
- ・歩行中は一列または二列で歩き、道路横断時などは交通安全に十分気を付けてください。
- ・急坂、石段などがありますので、足元にご注意ください。
- ・昆虫や植物などは採取しないでカメラやスケッチに収めてください。
- ・地元の方々のご理解、ご協力をいただき、神社や寺院などに伺いますので、失礼のないようにお願いします。
- ・弁当や菓子などのゴミは、各自お持ち帰りください。
- ・記録写真を撮る場合がありますので、ご了承ください。
- ・アンケートを頂く場合がありますので、その時はご協力ください。
- ・マスクの着用・咳エチケットの励行・ソーシャルディスタンスの確保等新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします。



- ① 戸倉神明社前
- ② 三島神社
- ③ 光厳寺
- ④ 戸倉しろやま
テラス
- ⑤ 沢戸橋
- ⑥ 子生神社
- ⑦ 五日市郷土館
(旧市倉家住宅)

私たち市民解説員は、ふるさとあきる野を愛し、地域の自然・歴史・文化の再発見に努めるとともに、これらを市民の皆さまや市外から訪れる方々に紹介し、まちづくりと生涯学習の推進を図る学習ボランティアです。

あきる野市は、自然や遺跡、文化財の宝庫です。美しく恵まれた環境のもので、地域の皆さまと一緒に学びあい、活動できることを嬉しく思っています。今後ともよろしく願いいたします。

<担当解説員>土居秀夫・高橋清樹・板花利子・笹本英一

市民解説員が案内する市内探訪

秋の山里

戸倉城山のふもとを歩く



<沢戸橋から戸倉城山を望む>

<コース>

武蔵五日市駅 ～ (路線バス) ～ 停留所(西戸倉) ～ 戸倉神明社前
～ 三島神社 ～ 光厳寺 ～ 戸倉しろやまテラス ～ 沢戸橋
～ 子生神社 ～ 五日市郷土館(旧市倉家住宅) (徒歩 約4km)

令和3年11月18日(木)

あきる野市中央公民館

<戸倉城>

戸倉城山の山頂に、室町時代から戦国時代にかけて築かれた山城。北条氏照が滝山城を拠点にして、甲斐の武田氏と対峙するようになると、檜原城が甲州口の押さえる城となり、戸倉城は網代城や高月城を経て、滝山城や八王子城へと入っていく情報の中継する機能をもつ城になっていったと考えられている。
1590年八王子城の落城とともに廃城となった。



<三島神社>

①三島神社

社伝によると伊豆国三島神社を勧請して 958 年に創建。ご祭神は大山祇命(オオヤマツミノミコト)など。歴代武将の崇敬も厚く、15 世紀を中心に活躍した在郷武士団に関する「武州南一揆文書」や、西多摩地域が小田原北条氏に支配された 16 世紀の「後北条氏虎印文書」が残されている。江戸期には戸倉村の鎮守として祀られ、明治維新後には武多摩神社(旧不動堂)が境内末社に、明治末期に日吉神社と一緒に祀られた。

②光厳寺

臨済宗建長寺派の寺で、山号は鷲峰山(じゅほうさん)。当山の開創を伝える諸記録(「光厳寺由緒書」等)によれば、南北朝時代の 1334 年に創建し、当地方の禅宗寺院としては最も古い寺。ご本尊は「釈迦牟尼如来」、開山は正宗広智禅師(古先印元)、開基は足利尊氏、準開基足利基氏、再開基北条氏康。市指定文化財として「光厳寺扁額」「絹本着色仏涅槃図」がある。推定樹齢 400 年のヤマザクラは東京都の天然記念物に指定されている。



<ところ芋の碑>

この碑は天保の飢饉に際し、山野に自生する「ところ芋」を掘りに来た他村の人々を追い払おうとした村人の行為を抑え、自然の恵みだからとして、掘るにまかせた名主の徳を讃えたもの。民話としても伝わる。



<戸倉しろやまテラス>

③戸倉しろやまテラス

平成 25 年 3 月、139 年の歴史をもって閉校したあきる野市立戸倉小学校の校舎を活用し、地域と都市間交流を目的とする「体験」「宿泊」「飲食」「展示」の 4 つの機能を備えた滞在型体験研修施設。3 階には「秋川流域ジオ情報室」があり、資料室からの眺望が素晴らしい。



<ジオ展示室>



<めずらしい横井戸>

「光厳寺」から「戸倉しろやまテラス」への途中にある横穴の井戸(普通、井戸は縦に掘るものだが?)。戸倉地区では戸倉城山から秋川へ向かって伏流水が浅い所を流れているため、無理して縦に深く掘らずとも水を得ることができる。

<鳥居>

一説には天岩屋に隠れたアマテラスを誘いだすために鳴かせた鶏にちなんで神前に止まり木を置いたことが起源とされている。基本的には 2 本の横木と 2 本の柱からなり、色々な形状があるが、多くみられるのは伊勢神宮などの「神明鳥居」と伏見稻荷大社などの「明神鳥居」の 2 系統。



<神明鳥居>



<明神鳥居>

<子生神社>



④子生神社

創立年月日ははっきりしないが、社伝によると 1504 年両部神道修験者阿闍梨法印朱学院の創建という。ご祭神として猿田彦命・木花開耶姫命を祀り、創建以来、子孫繁栄・安産子育ての神として広く崇敬されている。底無し竹柄杓を奉納して安産を祈願する。本殿は市指定有形文化財。例大祭は 4 月第 3 日曜日。境内には「のらぼうの碑」がある。

<のらぼうの碑>



<旧市倉家住宅>

⑤旧市倉家住宅

平成元年と平成 9 年に行われた文化財調査では、江戸時代末期の構造・形式をよく残し、建築の質の高さと当時の生活様式を伝える歴史資料として高く評価された。また、養蚕技術の変遷を伝える構造や改造跡があり、保存状態も極めて良好であったことから平成 10 年 9 月 3 日に市指定有形文化財(建造物)となり、平成 11 年 4 月にあきる野市に寄贈された。地方の寺院などに見られる「出桁造り」がこの建物の特徴。